

## テサロニケの信徒への手紙 I 5章 16～18節

「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたに望んでおられることです。」

第一志望の公立高校受験に失敗し、気持ちが沈んでいた私を、新入生登校日に尚綱の先生方は次の言葉をもって迎えてくださいました。「置かれた場所で咲きなさい。」これは、ノートルダム清心学園の理事長でいらっしゃった、渡辺和子さんが書いた著書の題名で、この本は200万部のベストセラーとなりました。母もこの本を持っていたので、何度かこのタイトルが眼に入ることはあったのですが、担任の先生から聞いたこの言葉がその時の私に大きな衝撃を与えたことを今でも覚えています。

自分が、自分の望んだ環境にいないとき、中学までの私は周りの環境に責任を押し付け、お先真っ暗であるかのようにふるまっていました。中学2年生の秋に仙台への転校が決まったときも、積み上げてきたものがすべて壊されたような気さえて、新しい友達にもうまく心を開けず、部活にも思うように打ち込めず、転校さえしなければ、などと周りの環境ばかりを非難していました。

そんな私にとって、この「置かれた場所で咲きなさい」という言葉は、自分の今いる場所で、自分の今できる最大限のことをしてみようと思う良いきっかけになったのです。そして、この言葉と同じような表現として聖書の中に見つけたのが、先ほどお読みした聖書箇所、テサロニケの信徒への手紙 I 5章 16～18節だったのです。しかし、この聖句を初めて見たとき、私はいつもいつも喜んでることが、私に、人間にできるのだろうかかと疑問に思いました。もう少し聖書を見てみると、新約聖書、フィリピの信徒への手紙、4章4節に、非常に似たような聖句を見つけました。「主において常に喜びなさい。重ねて言います。喜びなさい。」主において喜ぶという表現に違和感を覚え、「喜ぶ」という言葉を辞書で調べてみると、普段私たちが使う「うれしく感じる」という意味の他に、「うれしく思い感謝する」や、「快く受け入れる」などの意味があることがわかりました。

つまり、「主において喜ぶ」とは、「イエス・キリストに感謝する」という意味を持っているのです。ならば、自分が苦しい状況やつらい状況にあっても、主において喜ぶことはできます。例えば、苦しい状況やつらい状況も、主が私のことを想って与えてくださった試練であり、それを乗り越えた先に大きな喜びがあると考えれば良いのです。それが、あとの「絶えず祈りなさい。」にもつながるのだと思います。

尚綱に入学した日から今日まで、私は楽しいときもつらいときも、その時出せる精一杯の力を尽くしてきました。そして、これからも主に対しての喜びを忘れずに、置かれた場所で力いっぱい咲くことができる花のような人になれるよう努めていきたいです。